

文責：尾形 有香

報告

2014年5月16日に、韓国釜山にある Dong-Eui university にて、“第18回日韓合同国際シンポジウム”が開催された。ハイブリットセッションでは、日本、韓国やその他の国々の教員、学生、企業の方が発表し、活発な議論が行われた。同日の懇親会後に韓国廃棄物学会事務局の主催で”第9回日韓若手研究者交流会“が開催され、日本側では、北海道大学、東京工業大学、福岡大学、九州大学の教員及び学生と、国立環境研究所の研究員を合わせ、17名が参加した。なお、若手の会のサポーターである、石垣先生（国立環境研究所）と高橋先生（東京工業大学）も参加して頂き、会場を盛り上げて下さった。韓国側は、世話人の教員や若手の大学教員及び、学生を含めて13名参加した。

参加者全員で、大学より20分程徒歩で移動し、交流会会場である飲み会に向かった。まず初めに、それぞれ英語で自己紹介をした後、世話人の教員から韓国の飲み会のマナーを教えて頂き、韓国の焼酎である“チャミスル”で乾杯し、交流会が開始された。日本、韓国（+マレーシア）の参加者とも、英語で会話をしながら、交流を楽しんでいた。今回の世話人は、日本に留学していたこともあり、韓国と日本の文化や伝統の違いについても色々と教えて下さり、今後の国際関係についても考える良い機会となった。最後に、日本の若手の会より、9月に開催される本学会への参加を呼びかけた。

今後の改善

交流会の最中に、開催地である広島について紹介すると、韓国の学生は興味を持ってくれ、学会に参加したいという意見を聞くことができた。よって、次回からは、本学会の紹介を交流会の開始時に行うとともに、ビラを配る等アピールすることで、韓国の学生の興味を高め、参加を促すことが望まれる。同時に、日本の学生の参加も促すことができると考えられる。



懇親会の様子